環境経営を支える“環境統合情報システム”

池神正晃* 田辺勝則**
竹内秀年* 福田孝司***
中村 馨**

Environmental Management Supported by ECO-oriented Corporate Management System

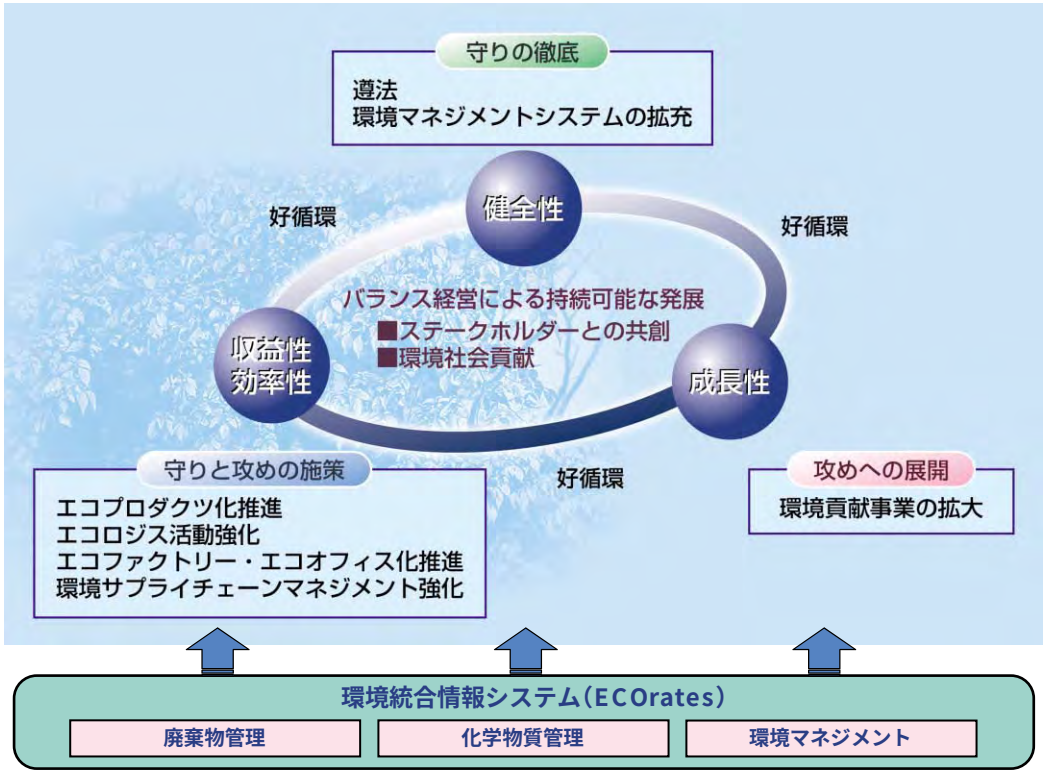
Masaaki Ikegami, Hidetoshi Takeuchi, Kaoru Nakamura, Katsunori Tanabe, Takashi Fukuda

要 旨

三菱電機グループでは“すべての事業活動及び社員行動を通じ，これまでに培った技術と今後開発する技術によって環境の保全と向上に努める”という環境基本理念のもと，1993年から具体的な活動目標をグループの環境計画として策定し，環境負荷低減，環境経営に取り組んできた。2006年度から取り組んでいる“第５次環境計画”では“守り”と“攻め”の諸施策を推進し，グローバル連結環境経営を拡充して，サプライチェーンにおける環境への負荷を低減させるための施策の展開を目指している。

近年の社会情勢を反映して環境関連法令や規制は年々強化されており，担当者の知識や経験のみに依存した遵法の徹底では限界がきている。また“環境計画”が進展するごとに環境管理項目の見直しや強化による変更が発生し，さらにグローバル連結環境経営という観点から管理対象が国内外の関係会社まで広がっている。

このような状況の下“環境計画”を着実に実行するために，三菱電機の業務ノウハウを採り入れIT技術を駆使して構築した“環境統合情報システム”を活用する。これによって同一レベルでグループ全体での遵法の徹底と，ますます増加する環境管理業務の効率化・省力化が可能となる。今後も継続される“環境計画”に対して，システムもタイムリーに強化して環境経営を支えていく。このシステムはパッケージソフト化して外販事業化しており，環境事業面でも貢献している。



第５次環境計画のコンセプトとそれを支える環境統合情報システム

三菱電機グループは，“成長性”“収益性・効率性”“健全性”からなるバランス経営を推進している。これらの施策の達成を支援する仕組みとして，“廃棄物管理”“化学物質管理”“環境マネジメント”を支援する“環境統合情報システム（ECO-oriented Corporate Management System：ECOrates）”を構築した。このシステムを三菱電機の全事業所及びグループの環境計画策定会社へ展開している。